

コロナ禍においても BJT ビジネス日本語能力テスト 志願者は微増（前年比 108.6%）

BJT ビジネス日本語能力テスト（以下、BJT）を主催する公益財団法人 日本漢字能力検定協会（本部：京都市東山区／代表理事 理事長：山崎 信夫／以下、漢検協会）は、2020 年度の BJT 受験状況について発表いたします。2020 年度の BJT 志願者数は、5,477 人となり、前年より 435 人（8.6%）増加しました。

■全体概況 [表 1] [表 2]

2020 年度は新型コロナウイルスの感染が国内外で急拡大した春から初夏にかけて、多くの検定試験と同様に、BJT も一部のテストセンターが閉鎖する事態となりました。一時は安定した試験運営が困難な状況下にありましたが、最終的に BJT 志願者数は 5,477 人（前年比 108.6%）と昨年度より微増しました。

国内と海外それぞれの受験状況としては、国内は 3,489 人（前年比 104.9%）、海外は 1,988 人（同 115.9%）と共に増加しました。なお、志願者数全体に占める国内・海外の志願者数割合は国内 63.7%、海外 36.3%と、前年の状況（国内 66.0%、海外 34.0%）よりやや海外の割合が増えました。

これらのことから、コロナ禍にあってもビジネス日本語の習得に励む外国人の規模には、大きな変化が見られないと言えそうです。

[表 1] BJT ビジネス日本語能力テスト 2018 年度～2020 年度 志願者数（日本国内・海外）※1

※1：受験したテストセンター所在地から算出

	2018年度	2019年度			2020年度		
	志願者数	志願者数	対前年		志願者数	対前年	
国内	2,893	3,326	+433	115.0%	3,489	+163	104.9%
海外	1,426	1,716	+290	120.3%	1,988	+272	115.9%
合計	4,319	5,042	+723	116.7%	5,477	+435	108.6%

[表 2] BJT ビジネス日本語能力テスト 国内志願者・海外志願者の割合

	2018年度	2019年度	2020年度
国内	67.0%	66.0%	63.7%
海外	33.0%	34.0%	36.3%

■コロナ禍でも志願者数が微増した背景

2020 年度志願者を年代別に見ると、[表 3] のように 23～30 才の年代が 59.5%と全体の約 6 割を占めていることがわかります。続いて多いのは 31～40 才の年代（20.5%）で、23 才から 40 才だけで全体の約 8 割を占めています。このことから、BJT は若手～中堅のビジネスパーソンに多く受験されていると想像されます。

[表 3] BJT ビジネス日本語能力テスト 年代別志願者数推移・割合

		15才以下	16～18才	19～22才	23～30才	31～40才	41～50才	51～60才	61才以上	総計
2020年度	志願者数	9	68	788	3,261	1,125	171	54	1	5,477
	割合	0.2%	1.2%	14.4%	59.5%	20.5%	3.1%	1.0%	0.0%	100%
2019年度	志願者数	1	100	756	2,937	1,034	181	32	1	5,042
	割合	0.0%	2.0%	15.0%	58.3%	20.5%	3.6%	0.6%	0.0%	100%
2018年度	志願者数	3	16	553	2,691	872	153	25	5	4,318
	割合	0.1%	0.4%	12.8%	62.3%	20.2%	3.5%	0.6%	0.1%	100%

さらに、年代別に過去3年の増減を見てみると23～30才はおおよそ250人ずつ増加、31～40才はおおよそ100人ずつ増加しており、BJT志願者数を押し上げていることがわかりました [表 4]。

[表 4] BJT ビジネス日本語能力テスト 年代別志願者増減数・増減率

		15才以下	16～18才	19～22才	23～30才	31～40才	41～50才	51～60才	61才以上	総計
2020年度 (対2019)	増減数	+8	-32	+32	+324	+91	-10	+22	0	+435
	増減率	900.0%	68.0%	104.2%	111.0%	108.8%	94.5%	168.8%	100.0%	108.6%
2019年度 (対2018)	増減数	-2	+84	+203	+246	+162	+28	+7	-4	+724
	増減率	33.3%	625.0%	136.7%	109.1%	118.6%	118.3%	128.0%	20.0%	116.8%

受験者の判定レベルを見てみると、全体の30.2%がJ3(限られたビジネス場面で日本語によるコミュニケーション能力がある)と判定され、45.3%がJ2(限られたビジネス場面で日本語による適切なコミュニケーション能力がある)と判定されています [表 5]。企業においてBJTのスコアやレベルを昇格要件や手当の支給要件に定めているケースもあり [参考]、このような目的での受験はコロナ禍の影響をあまり受けなかったのではないかと考えられます。

[表 5] BJT ビジネス日本語能力テスト レベル別受験者数・割合

	受験者数	J5	J4	J3	J2	J1	J1+	判定できず
国内	3,316	2	126	988	1,587	421	179	13
海外	1,904	13	205	588	779	233	78	8
総計	5,220	15	331	1,576	2,366	654	257	21
割合	100%	0.3%	6.3%	30.2%	45.3%	12.5%	4.9%	0.4%

[参考] 企業での資格活用事例

福利厚生(奨励金)	[対象基準]	BJT J1レベル以上
採用・人事	[採用基準]	BJT 500点以上
採用・人事	[昇格基準]	シニアチームリーダー BJT J2以上など

漢検協会担当者コメント

労働人口の減少が避けられない日本企業において、中長期戦略として外国人採用に取り組まれる企業が増えてきたと感じます。そのような企業のほとんどは外国人材を特別枠とはせず、日本人と同様に総合職として受け入れています。外国人材に将来の幹部候補として活躍を期待しているからこそ、社内外で通用するビジネス日本語能力は採用時の重要な選考基準となるだけでなく、入社後の社員に対しても更なる向上を期待するとのお話を伺います。

公益財団法人 日本漢字能力検定協会 普及第二部部長 山田乃理子

■BJTとは

BJT は、ビジネス場面で必要とされる日本語コミュニケーション能力を測定するテストです。1996 年に独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）が開始し、2009 年に漢検協会が日本語能力育成活動の一環として継承しました。

言葉によるコミュニケーションだけでなく、文章や図表、写真による場面など、与えられたすべての情報を用いて、日本語を理解、運用し、ビジネス上の課題に対して適切に対応する力を測定します。出題は合計で 80 問あり、「聴解」「聴読解」「読解」の 3 つのセクションで構成されています。

BJT のテスト結果は IRT（項目応答理論）に基づいた統計処理により 0～800 点で採点され、J5～J1+ の 6 段階のレベルで評価されます。

2017 年 4 月に現在の CBT（Computer Based Testing）方式に移行。2021 年 9 月現在、国内 34 都市・海外 18 カ国・1 地域にて実施しています。PBT（Paper Based Testing）方式で実施していた頃は年 2 回しか受験機会がありませんでしたが、現在は受験者の都合に合わせて受験日時と会場を自由に選ぶことができます（受験可能日時はテストセンターの営業日時に準じます）。

また、BJT は在留資格認定の要件（※2）となっている数少ない試験です。就職活動を行う本邦大学卒業者を対象とする「在留資格(特定活動)」や「在留資格(留学)」等で日本語能力指標に採用されています。

■在留資格認定の要件（※2）

- 「在留資格認定証明書交付申請」に日本語能力の証明として BJT スコアを明記できます（300 点以上で JLPT の N5 以上）
- 「留学生の就職支援に係る『特定活動』の要件（本邦大学卒業生）」に認定されています（480 点以上で JLPT の N1 と同等）
- 「高度人材ポイント制」において、BJT スコア 480 点以上で 15 ポイント（JLPT の N1 と同等）、400 点以上で 10 ポイント（JLPT の N2 と同等）が付与されます
その他、大学における単位認定や留学支援の要件としても活用されています。

<BJT に関する一般の方のお問い合わせ先>

公益財団法人 日本漢字能力検定協会 お問い合わせ窓口
電話：0120-509-315（フリーコール）
※月～金 9:00～17:00（祝日・お盆・年末年始を除く）

<本件に関する報道関係者のお問い合わせ先>

公益財団法人 日本漢字能力検定協会 広報担当：中森・真壁
電話：075-757-8682（直通）／E-mail：koho-c@kanken.or.jp